

へきなんの図書館がすすめる夏休みの本

（５・６年生向き）

2024



『真昼のユウレイたち』
 まひる
 岩瀬 成子／作 偕成社（913イ・マ）

幽霊に出会った子どもたちの4つの物語が入っている本です。

この本に出てくる幽霊は、こわい霊ではなくて、家族や友だちをはげましたくてやって来た幽霊です。そんな幽霊と一緒に過ごすうちに、みんな元気をもらっていきます。



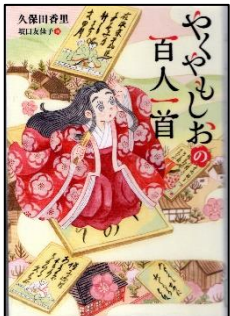
『かげふみ』
 朽木 祥／作 光村図書出版（913ク・カ）

夏休みを広島のおばあちゃんの家ですごすことになった拓海は、児童館で、「影の本」を探している三つ編みの女の子と雨の日に会うようになります。拓海は、その子と話をするうちに、原爆で亡くなった人たちのことを考えるようになっていきます。



『やくやもしおの百人一首』
 ひやくにんいっしゅ
 久保田 香里／作 くもん出版（913ク・ヤ）

資料館の古い百人一首のかかるたの箱から、上の句のふだが1枚消えた。対になっている下の句のふだが、「消えたふだの所につれていって!」と願うと、平安時代にタイムスリップし、なぜか人間の女の子の姿になっていて…。



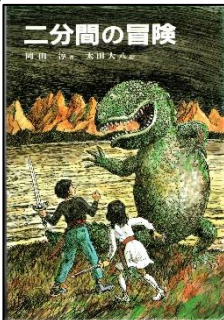
『天の台所』
 てん だいどころ
 落合 由佳／著 講談社（913オ・テ）

家事をしていていたおばあちゃんが亡くなって、天の家は荒れていた。そんなある日、天は、ひょんなことから、いつもガミガミ怒ってくる近所のおばあさんから料理を習うことになる。卵も上手く割れない天が、料理を作れるようになるのだろうか？



『二分間の冒険』
 にふんかん ぼうけん
 岡田 淳／著 偕成社（913オ・ニ）

体育館に落ちていたとげぬきを保健室に届けようとした悟は、途中で出会った不思議な黒ネコに別の世界へ送られてしまいます。そこは、子どもが竜のいけにえされる世界でした。そして悟は、いけにえに選ばれてしまい…。



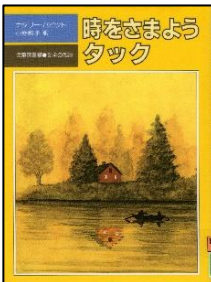
『きみが、この本、読んだならとまどう放課後編』
 ほうかごへん
 森川 成美／ほか作 さ・え・ら書房（913キ）

自分の好きな本を友だちにすすめたり、友だちから本を貸してもらう話が4つ入っています。同じ本を読むことで、お互いの気持ちが前よりも通じるようになったり、前とは違う考え方や行動ができるようになります。



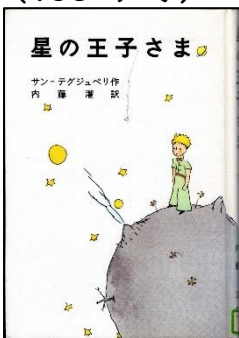
『時をさまようタツク』
 とき
 ナタリー・バビット／作 評論社（933バ・ト）

ウィニーが森で出会った少年は実は104歳だった！その少年の家族は不思議な泉の水を飲んで、年をとることも死ぬこともできない体になってしまったのだ。一家はそのことをかくしてひっそりと暮らしていたが、ウィニーと出会ったことで、人々にばれてしまいそうになり…。



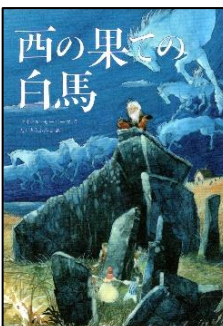
『星の王子さま』
 ほし おうじ
 サン＝テグジュペリ／作 岩波書店（953 サ・ホ）

飛行機の故障でサハラ砂漠に不時着した飛行士が、そこで少し変わった男の子と出会います。男の子は、地球とは別の小さな星からやって来たと言い、自分の星のことや、ここに着くまでに会った人たちのことを話してくれますが…。



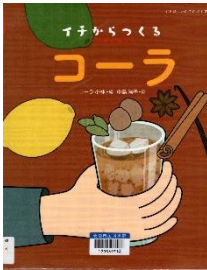
『西の果ての白馬』
 にし は はくば
 マイケル・モーパーゴ／作 徳間書店（933モ・ニ）

幽霊に出会った女の子の話や、妖精との約束をやぶったためにひどい目にあった男の話など、イギリスの村が舞台の不思議な物語が5つ入っている本です。それぞれ別々の物語ですが、5つを全部読むと、つながりがわかります。



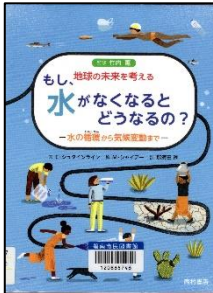
『イチからつくるコーラ』
 いちからつくる
 コーラ小林／編 農山漁村文化協会（588イ）

飲み物のコーラは好きかな？もしも好きなら、自分でコーラを作ってみない？家でコーラを作ることができるレシピが載っている本です。コーラの歴史や、材料のことも詳しく紹介されています。どうして、コーラがあの色なのかもわかるよ！



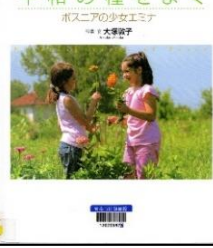
『もし、水がなくなるとどうなるの？』
 もし、水がなくなるとどうなるの？
 C・シュタインライン／文 西村書店（517モ）

人間が生きていくのに欠かせない大切な水。水がなくなってしまうことはあるのでしょうか？水の性質、暮らしや産業との関係、気候変動のことなどをわかりやすく紹介し、水を守るために私たちができることを教えてくれます。



『平和の種をまく』
 へいわ たね
 大塚 敦子／写真・文 岩崎書店（Eへ）

ボスニアには、戦争で戦った違う民族の人たちが、戦争後に一緒に働いている農園があります。民族は違っても、みんな仲良く暮らしています。どうして、民族の違う人と戦争になることがあるのでしょうか？戦争と平和について考えさせてくれる写真絵本です。



『テオの「ありがとう」ノート』
 テオの「ありがとう」ノート
 クロディーヌ・ル・グイック＝プリエト／著 PHP 研究所（953ル・テ）

生まれつき障がいがあり、車いすで生活しているテオは、ある日、「ありがとう」と「すみません」を人よりも多く言っていることに疑問を感じます。テオは、その2つの言葉を使う回数を減らそうとしますが、なかなか難しくて…。



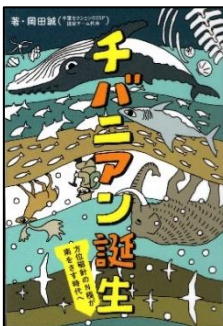
『僕らが学校に行く理由』
 ぼく りゆう
 渋谷 敦志／写真・文 ポプラ社（372ポ）

世界には紛争や貧困などで、学校に通えない子どもがたくさんいます。そんな子どもたちの生活の様子を写真とともに紹介している本。取材を重ねる中で作者が感じた、学ぶことの意義や、世界をより良くしていく方法についても書かれています。



『チバニアン誕生』
 たんじょう
 岡田 誠／著 ポプラ社（456チ）

地球の歴史を示す地質年代の中の「チバニアン」は、千葉県にある地層が、その年代の地球の様子を世界一知ることができる地層だと認められたので、その名前がつけられました。「チバニアン」誕生のために、地質学者たちが地層からいろいろなことを証明していく様子を楽しく教えてくれる本です。



『風の島へようこそ』
 かぜ しま
 アラン・ドラモンド／さく 福音館書店（ED・カ）

デンマークの小さな島、サムス島は、島でつかう電気を太陽や風などの自然エネルギーで作っています。しかし最初、大人たちは、この方法をやりたがりませんでした。でも、ある日、電気が本土から届かなくなってしまて…。

